

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成22年2月18日 (2010.2.18)

【公表番号】特表2009-522358(P2009-522358A)

【公表日】平成21年6月11日 (2009.6.11)

【年通号数】公開・登録公報2009-023

【出願番号】特願2008-549506(P2008-549506)

【国際特許分類】

A 0 1 N 43/56 (2006.01)

A 0 1 P 7/00 (2006.01)

A 0 1 P 7/04 (2006.01)

A 0 1 N 25/08 (2006.01)

A 0 1 N 25/04 (2006.01)

【F I】

A 0 1 N 43/56 D

A 0 1 P 7/00

A 0 1 P 7/04

A 0 1 N 25/08

A 0 1 N 25/04 1 0 2

【手続補正書】

【提出日】平成21年12月22日 (2009.12.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

節足動物を駆除するための懸濁液濃縮組成物であって、該組成物の総質量に基づく質量で、

(a) 0.1 ~ 40 % の少なくとも 1 つの室温で固体のカルボキサミド節足動物駆除物質；

(b) 0 ~ 20 % の少なくとも 1 つのその他の生物活性物質；

(c) 30 ~ 95 % の少なくとも 1 つの水不混和性の液体担体；

(d) 0 ~ 50 % の少なくとも 1 つの乳化剤；

(e) 0.01 ~ 10 % のシリカ増粘剤；

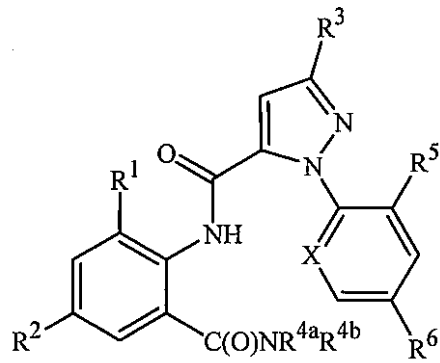
(f) 0.1 ~ 10 % の、水、 $C_1 \sim C_{12}$ アルカノール、および、 $C_2 \sim C_3$ グリコールから選択される少なくとも 1 つのプロトン性溶媒；および、

(g) 0.001 ~ 5 % の少なくとも 1 つの水溶性カルボン酸、を含む、上記組成物。

【請求項 2】

構成要素 (a) は、式 1：

【化 1】



1

[式中、

X は、N、C F、C C l、C B r または C I であり；

R¹ は、C H₃、C l、B r または F であり；

R² は、H、F、C l、B r または - C N であり；

R³ は、F、C l、B r、C₁ ~ C₄ ハロアルキル、または、C₁ ~ C₄ ハロアルコキシであり；

R^{4a} は、H、C₁ ~ C₄ アルキル、シクロプロピルメチル、または、1 - シクロプロピルエチルであり；

R^{4b} は、H、または、C H₃ であり；

R⁵ は、H、F、C l、または、B r であり；そして、

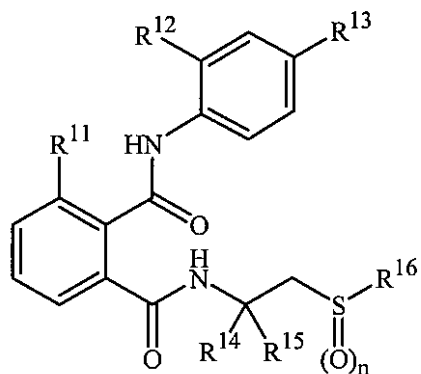
R⁶ は、H、F、C l、または、B r である]

で示されるアントラニルアミド、それらの N - 酸化物および塩から選択される請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

構成要素 (a) は、式 2：

【化 2】



2

[式中、

R¹¹ は、C H₃、C l、B r または I であり；

R¹² は、C H₃、または、C l であり；

R¹³ は、C₁ ~ C₃ フルオロアルキルであり；

R¹⁴ は、H、または、C H₃ であり；

R¹⁵ は、H、または、C H₃ であり；

R¹⁶ は、C₁ ~ C₂ アルキルであり；そして、

n は、0、1 または 2 である]

で示されるフタル酸ジアミド、および、それらの塩から選択される請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 4】

構成要素 (a) は、組成物の 5 ~ 25 質量%であり；構成要素 (b) は、組成物の 0 ~ 15 質量%であり；構成要素 (c) は、 $C_1 \sim C_4$ アルカノールの脂肪酸エステル、アルコキシル化脂肪酸エステル、植物油、および、鉱油からなる群より選択される少なくとも 1 つの物質を含み、そして、組成物の 40 ~ 70 質量%であり；構成要素 (d) は、アニオン性界面活性剤、非イオン界面活性剤、および、これらの混合物から選択され、そして、組成物の 10 ~ 40 質量%であり；構成要素 (e) は、組成物の 0.01 ~ 5 質量%であり；構成要素 (f) は、組成物の 0.5 ~ 5 質量%であり；そして、構成要素 (g) は、組成物の 0.01 ~ 5 質量%である、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 5】

構成要素 (c) は、 $C_1 \sim C_2$ アルカノールの飽和または不飽和 $C_{16} \sim C_{18}$ 脂肪酸エステルを含み、そして、組成物の 50 ~ 60 質量%であり；構成要素 (d) は、アニオン性界面活性剤、および、非イオン界面活性剤の混合物を含み、ここにおいて該アニオン性界面活性剤の該非イオン界面活性剤に対する比率は、2 : 1 ~ 1 : 10 の範囲であり；構成要素 (e) は、ヒュームドシリカを含み；構成要素 (f) は、水を含み、この水は、組成物の 0.5 ~ 5 質量%であり；そして、構成要素 (g) は、クエン酸を含み、そして該クエン酸は、組成物の 0.01 ~ 2 質量%である、請求項 4 に記載の組成物。

【請求項 6】

構成要素 (c) は、ヒマワリ、ダイズ、綿またはリンシードのメチル化種油を含む、請求項 4 に記載の組成物。

【請求項 7】

アニオン性界面活性剤は、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩であり、非イオン界面活性剤は、エトキシ化ソルビトールエステル、エトキシ化ソルビタンエステル、エトキシ化脂肪酸エステル、および、それらの混合物から選択され、該アニオン性界面活性剤の該非イオン界面活性剤に対する比率は、質量で 2 : 1 ~ 1 : 5 の範囲である、請求項 4 に記載の組成物。

【請求項 8】

少なくとも 1 つのその他の生物活性物質は、アバメクチン、アセタミプリド、アミトラズ、エパーメクチン、アザジラクチン、ピフェントリン、プロフェジン、カルタップ、クロルフェナピル、クロルピリホス、クロチアニジン、シフルトリン、ベータ - シフルトリン、シハロトリン、ラムダ - シハロトリン、シペルメトリン、シロマジン、デルタメトリン、ジエルドリン、ジノテフラン、ジオフェノラン、エマメクチン、エンドスルファン、エスフェンバレレート、エチプロール、フェノチオカルブ、フェノキシカルブ、フェンバレレート、フィプロニル、フロニカミド、フルフェノクスロン、ヘキサフルムロン、ヒドラメチルノン、イミダクロプリド、インドキサカルブ、ルフェヌロン、メタフルミゾン、メトミル、メトプレン、メトキシフェノジド、ニテンピラム、ニチアジン、ノバルロン、オキサミル、ピメトロジン、ピレトリン、ピリダベン、ピリダリル、ピリプロキシフェン、リアノジン、スピネトラム、スピノサド、スピロジクロフェン、スピロメシフェン、テブフェノジド、チアクロプリド、チアメトキサム、チオジカルブ、チオスルタップ - ナトリウム、トラロメトリン、トリアザメート、トリフルムロン、バチルス・チューリングゲンシス サブスピーシズ アイザワイ、バチルス・チューリングゲンシス サブスピーシズ クルスターキ、核多角体病ウイルス、および、バチルス・チューリングゲンシスのカプセル封入された - 内毒素から選択される、請求項 1 に記載の組成物。